

# 明治150年記念 平成30年度全日本少年少女武道(空手道)錬成大会参加要領

## 1 基本錬成

フロアの正面に台を設け、指導員が突き蹴り受けを行い、参加者はそれに合わせて気合を発しながら錬成を行う。

## 2 試合錬成

試合錬成はまず形団体戦を行い、各部・各ブロックの決勝トーナメント進出チーム（各ブロック上位8チーム）により組手団体戦を行う。

## 3 試合の運行

### (1) 形競技

- ① 形団体戦は各チームごとに指定されたコート控え席で待機し、係員の呼び出しにより入場し、任意の位置につき正面に礼をする。その際選手の並び方は自由とする。なお、どのコートで演武するかは、当日配布のプログラムを参照のこと。
- ② 競技は、5人の審判員による採点方式とし、その最高・最低を除く3人の合計点を得点とする。ただし、同点の場合は、採用した中の最低点の高い点数のチームを勝者とする。その結果、さらに同点の場合は、採用した中の最高点の高い点数のチームを勝者とする。さらに同点の場合は、再演武を行う。再演武は、1・2回戦で演武した形でもよい。
- ③ 1回戦は、基本形（平安・ピンアン・ゲキサイ）の中から選んで演武する。
- ④ 2回戦は、1回戦で演武していない基本形、または全日本空手道連盟第一指定形（ジオン・カンクウダイ・バッサイダイ・セイエンチン・セーパイ・サイファ・セイシャン・チントウ）の中から選んで演武する。
- ⑤ 演武はまず始めにそのチームの代表者が演武する形名を呼称する。主審の短笛1回の合図の後、演武代表者の号令「始め」で開始し、演武が終了したら礼をして採点表示を待つ。得点宣言を受けた後、再び礼をして退場する。
- ⑥ 判定の基準は、原則としてチーム全体のまとまりを総合的に判定するが、主要な得点要素は下記の各項とする。
  - (ア) 団体行動すべてが整然としているか否か。
  - (イ) 礼が守られているか否か。
  - (ウ) 全体としての技の決め、スピード、安定度等。
- ⑦ 反則負け及び減点の対象については、全日本空手道連盟が定める空手競技規定のとおりとするが、一部については、全日本少年少女武道（空手道）錬成大会申し合わせ事項（別紙）に定めるとおりに適用する。
- ⑧ プログラムについては、システムの都合上、「平安」「ピンアン」は平安のみの表記となる。

### (2) 組手競技

- ① （公財）全日本空手道連盟組手競技規定に準拠して実施する。
- ② 組手団体戦は、形団体戦各ブロックの上位8チームによりトーナメント方式で行う。
- ③ 試合時間は、1分間とする。ただし、勝敗は時間内に6ポイント差が生じた場合に決する。また、6ポイント差に達しなかったときは、試合終了後、ポイント数の多い方、ポイント同数の場合は先取がある方を勝ちとする。先取がないときは引き分けとする。

- ④ 安全具（インステップガード・シンガード）は各自で用意することとし、JKF検定のニューメンホー、ボディプロテクター（空手衣の中に着用）、拳サポーター（小学生はJKF検定小学生用赤・青リバーシブル拳サポーターとし、中学生は従来の赤・青拳サポーターとする）、小学3年生以上の男子は空手衣の中にセーフティカップを着用する。
- ⑤ 選手の出場順は、各試合ごとに監督が所定の用紙により各コートの記録係に提出するものとする。
- ⑥ 組手団体戦の勝敗は、全員試合を終了した時点で勝者数の多い方を勝ちとする。勝者数が同数の場合は、ポイント数が多い方を勝ちとする。ポイントが同数の場合のみ代表戦を行う。
- ⑦ 定員数を下回り2名の場合でも試合は成立する。ただし、先詰め出場とする。
- ⑧ 組手団体戦は、チームの勝敗にかかわらず、全員（3名）の試合を行う。
- ⑨ 試合の審判団は、監査1名、主審1名、副審4名の構成で行う。

## 4 表彰

(1) 各部ごとに次の各賞を授与する。

(ア) 小学1・2年生の部、小学3・4年生の部、小学5・6年生の部

- ① 優秀賞（2チーム）
- ② 優良賞（2チーム）
- ③ 敢闘賞（4チーム）
- ④ 努力賞（8チーム）

※個人にも賞状を贈る。

(イ) 中学生男子の部、中学生女子の部

- ① 優秀賞（1チーム）
- ② 優良賞（1チーム）
- ③ 敢闘賞（2チーム）
- ④ 努力賞（4チーム）

※個人にも賞状を贈る。

(2) 優秀賞のチームには日本武道館より優秀旗（持ち回り）を贈る。

(3) 前年度優秀賞のチームにはレプリカを授与する。

## 5 監督

監督は1チーム1名とし、重複は認めない。資格は18歳以上とし、高校生は不可とする。

## 6 選手構成

形・組手とも登録選手は1チーム3名以上4名以内とし、そのうち3名が出場する。この3名は小学生の部は男女混成でもよい。また学年も、例えば小学5・6年生の部であれば5年生だけでも6年生だけでもよい。

なお、登録したチーム以外への選手の移動は一切認めない。違反したチームは反則負けとする。

## 7 その他

この「参加要領」の内容は、責任者のみならず各チームの監督も熟知しておくこと。

以上